

とてつもなび取引きに応じてしまった役者馬鹿二世二代の演技をする時がやって来た



フリップレオタール  
アニー・ジラルド

# 暗殺の報酬

ジャック・ベノ アミトウー クリスチャン・マルカン シュリエット・ビノー シュイフルニエール ショントフランシ アカス・シル エマニュエル・ブーズ  
監督・原案 ホブ・テコー ●脚本 シャンタル・ベルネッカー ●音楽 ドミニク・ベリエール ●製作 ヤニック・ベルナル © MCMXXXIV ODESSA FILMS-TF1 FILMS PRODUCTION  
(カラー) フランス映画 ビューマックスビッグチャーズ配給 KURAK



# 暗殺の報酬

ADIEU  
BLAIREAU

上映時間■1時間33分 5巻2, 537M / サイズ■ヴィスタヴィジョン  
1984年度作品 / カラー→フランス映画

© ODESSA FILMS-TF1 FILMS PRODUCTIONS

Humax Pictures

humax

## ■FICHE TECHNIQUE■

Producteur délégué..... YANNICK BERNARD  
 Directeur de production..... MEYER BERREBY  
 Réalisateur, Scénario..... BOB DECOU  
 Chef opérateur..... SERGE HALSDORF  
 Musique..... DOMINIQUE PERRIER  
 Chefs monteurs..... SOPHIE BHAUD  
 JEAN-BERNARD BONIS  
 Ingénieur son..... ADRIEN NATAF  
 Chef décorateur..... FRÉDÉRIC ASTICH-BARRE

## ■FICHE ARTISTIQUE■

Fred..... PHILIPPE LÉOTARD  
 Colette..... ANNIE GIRARDOT  
 GéGe..... JACQUES PENOT  
 Poupee..... AMIDOU  
 Victor..... CHRISTIAN MARQUAND  
 B. B..... JULIETTE BINOCHÉ  
 Boris..... ALBERT DRAY  
 Professeur..... YVES RENIER  
 Tueur..... JOHN DOBRYNINE  
 Gigi..... AGATHE GIL  
 Patron du carré d'as..... SERGE MARQUAND  
 (La Grenouille)..... PIERRE ARDITI

## ■スタッフ■

製作総指揮..... ヤニック・ベルナル  
 製作..... メイエル・ベレビー  
 監督・脚本..... ボブ・デコー  
 撮影・脚本..... セルジュ・アルドルフ  
 音楽..... ドミニク・ペリエ  
 編集..... ソフィー・バウ  
 ジャン・ベルナル・ボニ  
 録音..... アドリエン・ナタフ  
 セット..... フレデリク・アスティッシュ・バル

## ■キャスト■

フレッド..... フィリップ・レオタル  
 コレット..... アニー・ジラルド  
 ジェジェ..... ジャック・ペノ  
 ベベ..... アミドゥ  
 ビクトル..... クリスチャン・マルカン  
 ベベ (プリジット)..... ジュリエット・ピノシュ  
 ボリス..... アルベール・ドレイ  
 教授..... イブ・ルニール  
 殺し屋..... ジョンド・ブランジ  
 ジジ..... アガathe・ギル  
 バトロン..... セルジュ・マルカン  
 (アナグマ)..... ビエール・アルディティ

## 解 説

人生のどん底であぐら男。彼を棄て、成功への道を選んだ恋人。暗い過去を背負ったもう若くはない女。人を傷つけ、傷つけられて、なお生きていく人間の哀しさ——。非情の拳銃が火を吹くとき、心は真っ赤な血を流す……。

フランス映画の醍醐味がここに。フィルム・ノワールの魅力をいっぱいにつめこんだハードボイルド・アクション、それが本編である。

しがたない舞台俳優のフレッドは、ギャンブルによる多額の借金をかかえていた。組織はこれをきっかけに、彼を犯罪の世界に引きずり込もうとする。“殺し”をやらせようというのだ。追いつめられた彼は、別れた恋人プリジットの愛を狂ったように求め続けた。歌手としての華やかな道を歩き始めた彼女はそんな彼に冷たい。やがて組織に裏切られ、親友を殺されたフレッドの怒りが爆発した /

フレッドに扮し全編出すっぱりの熱演を見せるのは、フランスを代表する個性派スター、フィリップ・レオタル。特異な風貌で知られる彼は、「愛しきは、女ラ・バランス」で83年度セザール主演男優賞を受賞。男の哀愁をにじませた渋い演技が見事である。彼と一夜をすごす過去ある中年女性コレットには、ベテラン演技派のアニー・ジラルド(「若者のすべて」「愛のために死す」)。おさえた女の情念はまさに逸品。そして、主人公の若い恋人には、「汚れた血」「存在の耐えられない軽さ」などでいま最も期待されているフランスの若手スター、ジュリエット・ピノシュが扮しているのも話題である。その他の共演も「愛する者の名において」の若手ジャック・ペノ、「勝利への脱出」のアミドゥ、「アメリカの伯父さん」のビエール・アルディティ、「狂った本能」のベテラン、クリスチャン・マルカン、「ハーバレー」のセルジュ・マルカンと多彩な顔ぶれがそろった。監督ボブ・デコーは80年代初めから雑誌出版、ビデオ・クリップ、レコードなどで活躍している才人。夜の街を時にムーディーに、時にスリリングにとらえた撮影は「風の中のリゼンヌ」のセルジュ・アルドルフが担当した。

## ストーリー

「プリジット。お前をベベと呼ぶのは、この俺だけだ。頼む。戻って来てくれ」。

フレッドは今夜もパリの裏街をさまよひ歩き、別れた女の面影を追っていた。プリジットが彼のもとを去ってからまだ数日しかたってないのに、フレッドの人生はどん底にあった。ギャンブルによる借金はかなりの金額になり、舞台俳優としてのわずかな収入では、どうにもならないところまで来ていたのだ。幼なじみの親友、ジェジェはそんな彼を心配し、金の工面に手を貸そうとするが、フレッドの心は荒むばかりだ。

一晩中プリジットを捜しまわり、明け方近くにやっと見つけて追いつかったこともあったが、ただむなしだけだった。若いプリジットは歌の才能を認められ、レコード・デビューする道が開けていたのだ。「同じことをくり返したくない。私たちはもう終わったよ」。

打ちひしがれたフレッドに、ゆっくりと犯罪の影が近づいていく。追いつめられた彼は、ついに自らの手でそれをつかますにはいられなかった。運命を決める1本の電話を……。

「ああ、俺だ、フレッドだ。ひと月前の話の件、引き受ける決心がついた」。

それは薄汚く恐ろしい殺しの仕事だった。だが、うまくやれば金が返せる。プリジットを再びこの腕に抱くことも……。その夜、舞台がはねたあとフレッドは、共演女優のジジからコレットという魅力的な中年女を紹介される。おだやかな笑顔の下に悲しみとあきらめを隠し、人生のどん底を見てしまった者特有の目をしたコレットは、フレッドの演技をさかんにほめ、ほんのひととき彼に人間らしい心をとり返させた。

殺人決行の日は刻一刻と近づき、手口に関する細かな指示が与えられた。時刻は20時45分。場所はフェリシアン通りに面した駐車場。標的はリンカーンの後部座席に乗っている男。用心棒がエレベーターの安全を確認めに行ったスキに、ピストルで射つ。その間わずか2分——。

一方、フレッドのプリジットに対する想いは頂点に達していた。ピストルを手に狂ったよう

になった彼は、プリジットがレコーディング中のスタジオに乱入する。「愛してくれ。愛が欲しい。お前がいなければ俺は生きてる価値がないんだ」。しかし、プリジットの表情は冷えきったままで、彼を絶望の谷へつき落とす。

翌日、フレッドの仕事は簡単に終わる。逃げる途中でエレベーターにいるその用心棒と八手合わせ、とっさに殺してしまったことを除いては……。フレッドはその足で劇場に駆けつけると、何くわぬ顔で自分の出番をつとめた。

フレッドがコレットとバーで再会したのは、その夜のことだった。2人は淋しさをかばいあうように寄りそい、一夜を共にする。コレットにはつらい過去があった。脱獄犯の男と恋におち、2人で逃げる途中で男が殺され、自分だけが生き残って捕えられたのだ——。「似た者同士はすくわかるわ。あなたも私も地獄行きの列車に乗っているのね」。暗黒街の罠にズルズルとはまり、泥沼に墮ちていくフレッドを救いたいと願うコレット。だが、フレッドは「俺のことは忘れてくれ。会うのが遅すぎた」と言い残し、去っていく。見送るコレットの肩に髪に、無情の雨が降り注いだ。過酷な現実にはさらにフレッドに襲いかかる。組織は彼が犯罪向けの人間でないことに気づき、彼を消すことを決定したのだ。暗黒街で生きていくには、フレッドはあまりに孤独で愛に飢えていた。身の危険を感じ、アパートを引き払い劇場に隠れるフレッド。しかし、組織の放った殺し屋は、フレッドを心配して駆けつけたジェジェの命を奪ってしまふ。復讐に燃えるフレッドと殺し屋の一騎打ち。フレッドは冷静な判断でついに勝ちをおさめるが、親友を失ったショックは大きかった。

「なぜ奴が死んで、俺が悪党が生き残るんだ /」  
 プリジットに最期の手紙を書きかけたフレッドは、組織のオフィスへと向かう。すべてを失った男の背中を、夕陽が照らしていた。「俺はもう何も恐くない」。フレッドはそのときやっと、自分をとりまくあらゆる真実が鮮明に見えるてくるような気がした——。



'90 1/13 (土) 1/26 (金) より 2本立 1日1夜  
 日・祝を除き連日オールナイト実施 / 新宿コマ劇場広場前・ジョイバックビル2F (209) 歌舞伎町シネマ2 4974  
 ■同時上映「アラン・ドロン私刑警察」